

三大工藝

シューズミニッシュさんとは、先代社長の頃から30年以上ものお付き合い。「今の社長は仕事熱心で、その熱い気持ちにこたえようとうちも努力してきました」

難しいオーダーにも断らず
他社にできないことをやって形にする！

高校卒業後に、従弟がやっていた靴部品の加工会社に入り、17年間勤務。加工の仕事がほんまに面白くて、この仕事をずっとやっていこうと独立しました。最初は、家の一角で作業場を設けた、まさに家内工業。少しずつ会社を大きくし、何とか今までやってきました。

生野は昔、ハップサンダルと呼ばれるつつかけの製造が盛んでした。それが海外製の安価なサンダルが回るようになり、靴に関わる会社や職人が廃業していったんです。この時に痛感したのが、値段ではなく技術で勝負すること。生野の靴づくりは安さで勝負、と言われるような時代に、あえて、縫製や加工技術の質にこだわりました。業務用ミシンの種類の豊富さと、それを使いこなす職人が育っていることも、生き残った理由ですわ。

今、うちの取引の半分を占めるのが、同じ生野区にあるシューズミニッシュさんです。シューズミニッシュは、履き心地や歩きやすさを考えぬいたデザイン、素材を使った靴づくりを行っています。うちのところにも、扱ったことのない素材で作ってほしい、といった要望をされます。僕は技術で他に負けるのは嫌やし、他にできないものをやりたいと思っています。そやから、どんな要望にも応えたいと必死に食らいついていくうちに、うちの会社の技術もどんどん伸びています。機械に頼るというより、機械の動きに合わせる手の感覚こそが職人技。日本の中で、ものづくりの技術が少なくなっている昨今、後世に引き継ぎたい技がうちの会社には息づいています。

代表者 **金城秀男さん**

子どもに迷ってもらえるだけの仕事の量があります。
たくさん儲かる仕事ではないけれど、ゆきになつてくれたらいいんです。

サンダルやフラットシューズの生地部分も
縫うことが多いですね。時代によって、
素材なども変わってるんです。

ミシンによって、構造が違つて、
素材、糸の太さ、上糸だけで
縫つて模様をつけるものなど
色々あります。

技術を伝へていくには、
量ることも多少とも必要。
あと、流れる経験して
いくので。

ひと通りミシンで縫えるようになるには、
3年はかかる。

